



※農薬の使用はラベルの記載に従ってください。



土壌病害に感染させないために予防的防除を行いましょう！

気温の上昇と共に、各種病原菌による土壌病害が発生しやすくなります。

薬剤による防除や適正な水管理、高温対策などを行い、樹勢を保つようにしましょう！

萎れ症状等で根傷みの兆候がある場合は、早急に酸素剤の使用など根の回復に努めましょう！



おすすめ 薬剤	リゾレックス水和剤※ 	ユニフォーム粒剤 	ピシロックフロアブル※ 	ジオゼット水和剤 
FRAC	14	11,4	U17	19
適用病害	立枯病 白絹病等	立枯病(リゾグニア菌)	立枯病(ピシウム菌) 等	立枯病(リゾグニア菌)
希釈倍率	500~1000倍	18kg/10a	500倍	500倍
使用方法	土壌灌注	土壌表面散布	灌注	散布
使用時期	生育期	定植時又は生育期	発病前	発病初期
使用回数	5回	3回	5回	8回

※花き・観葉植物登録



似ているこの症状はどんな病気？～立枯病～

キクの「立枯病」には3種類あります。

- ①フザリウム立枯病(*Fusarium solani*)
- ②ピシウム立枯病(*Pythium*)
- ③立枯病(*Rhizoctonia*)



どの立枯病も、**根や地際部**から病原菌が侵入します。症状も**地際部の黒変や根の褐変**など、似ている部分が多いため区別がとても難しく、6~8月に発生が増加するため、注意が必要です！
また、病原菌によって効果の高い薬剤が異なるため、疑われる症状が発生した場合は、**病害虫診断**を行い、適切な対策を早急 to 実施することをおすすめします！

今月のおすすめ防除



地域の防除事例を基に作成しています(輪菊栽培)。品種、栽培条件によっては農薬が発生する場合がありますためご注意ください。さらに、展着剤・葉面散布剤等を加用する場合もご注意ください。

時期6	IRAC FRAC	対象病害虫	薬剤名	予防	治療	使用量・希釈倍数	使用時期	回数
定植時	P02	白さび病	inochioキクツチャ粒剤	○	—	6~9kg/10a	定植時	1回
生育初期	M03	白さび病	アントラコール顆粒水和剤	○	—	1000~2000倍	発病前~ 発病初期	6回
	23	アザミウマ類・アブラムシ類 ハダニ類	inochioセイレーンフロアブル	—	—	2000倍	発生初期	3回
消灯時	11	褐斑病・黒斑病 白さび病	メジャーフロアブル	○	○	2000倍	発病初期	3回
	5	アザミウマ類・オタバコガ ハダニ類 等	ディアナSC※ ¹	—	—	2500~5000倍 (対象害虫により2500倍)	発生初期	2回
発蕾時	3	うどんこ病・白さび病	アンビルフロアブル	○	○	1000倍	発病初期	7回
	30	アザミウマ類・ハダニ類 オタバコガ・ハスモンヨトウ	グレーシア乳剤	—	—	2000倍	発生初期	2回
破蕾期	7	白さび病	カナメフロアブル	○	○	4000~8000倍	発病初期	3回
	6	アザミウマ類・ハダニ類	アグリメック※ ²	—	—	500倍	発生初期	5回

※1花き・観葉植物(りんどうを除く)登録

※2花き・観葉植物(ガーベラを除く)登録